

まちづくり推進組織の会議記録

会議の名称	第7回(平成18年度第1回)かごしままちづくり会議
開催日時	平成18年5月23日(火)14:45~16:25
開催場所	松元支所3階大会議室
出席者 (委員) (市職員)	委員14名、市職員4名 西園委員、時村委員、今別府委員、四元委員、槐島委員、岩元委員、岡本委員、武委員、永山委員、奈良迫委員、西委員、前田委員、宮廻委員、山本委員 宇治野企画部参事、中園企画調整課主幹、その他関係職員
傍聴者数	0名
事務局	鹿児島市企画部企画調整課
会次第	1 開 会 2 委嘱状交付 3 正副会長選出 4 議 題 (1)平成16年度・17年度の開催経過等について(報告) (2)第6回(平成17年度第4回)地域まちづくり会議等における意見等の検討状況について(全市的な事項)(報告) (3)第7回(平成18年度第1回)地域まちづくり会議等の概要について(報告) (4)平成18年度予算について(報告) (5)今後の会議運営について (6)その他 5 閉 会
会議の概要	1 開 会 2 委嘱状交付 3 正副会長選出 委員の互選により、会長として宮廻委員を選出。 会長から、副会長として津曲委員を推薦すること、津曲委員は本日欠席のため、後日津曲委員の意向を確認して、副会長職を引き受けていただけるのであれば、次回の会議で報告する取扱いとしたいこと、以上の旨の発言があり、異議なく了承。 4 議 題 (1)平成16年度・17年度の開催経過等について(報告) 事務局から運営方針、所掌事項、協議フロー、これまでの開催経過等について説明。 会長から、地域まちづくり会議会長の代理出席の取扱いについて、委員に諮り、「やむを得ない事情で出席できない場合、代理の者を出席させることができる。」とする取扱いとすることで異議なく了承。 (2)第6回(平成17年度第4回)地域まちづくり会議等における意見等の検討

状況について（全市的な事項）（報告）

事務局から、第7回（平成17年度第5回）郡山地域まちづくり会議における意見等の検討状況のうち全市的な事項1件について報告。

委員から、温泉施設等の共通利用券については、広範囲で早急な検討を進めてほしいとの発言。

（3）第7回（平成18年度第1回）地域まちづくり会議等の概要について（報告）

事務局から、第7回（平成18年度第1回）地域まちづくり会議等の概要について報告

委員から、郡山の老人福祉センターについて、合併前はある程度柔軟な利用ができていたが、現在は、老人でなければ利用できない等の制限のため、利用者が少ない。実情に合わせた既存施設の有効活用を検討してほしいとの発言。

会長から、他の地域でも同じような施設利用について要望等がでているのか質問。

委員より、要望は出ているが、検討されていると思っているとの発言。

（4）平成18年度予算について（報告）

事務局から、平成18年度予算について報告。

会長から、組織整備について、これまで会議の中で出された、観光や農業を戦略的に考えるという意見が、観光プロモーション推進室や生産流通課の設置という形で反映されているとの発言。

委員から、予算資料において、自主財源と依存財源という表現が使われているが、「依存」という言葉は、市民の方々へ誤解を与えかねないため、「調整」財源など、表現を変えてはどうかとの発言。

会長から、自主という言葉との対比で使っていると考えられ、一般的・全国的に使われている言葉であり、事務局は今後機会があれば検討する参考にさせてもらえばよいのではないかと発言。

委員から、郡山に分遣隊ができ、普段の生活の中で、自分たちの見えるところに分遣隊があるという安心感があり、速やかな一体化という意味ではシンボリックなものができたと思う。このような配慮を引き続きお願いしたいとの発言。

委員から、市電軌道敷の緑化について、芝生は傷まないのか質問。

（5）今後の会議運営について

事務局から、今後の会議運営について説明。

委員から、次年度予算への反映を考慮したスケジュールにするべきとの発言。

事務局から、11月に開催予定の第10回から、1月開催予定の第11回会議の間であれば、予算への反映が可能ではないかと発言。

会長から、今年も提言を出すことになるだろうが、その時期はいつ頃になりそうか質問。

事務局から、地域まちづくり会議との日程の調整を図りながらしかるべき時

期に提言提出をお願いしたいと考えている旨回答。

会長から、地域まちづくり会議においても同じだが、テーマは重点的なものから進めるべきであり、かごしままちづくり会議では各地域の検討状況も勘案しながら全市的な観点で協議していくべきとの発言。

委員から、地域まちづくり会議の会長は地域の声を反映するために出席しているため、かごしままちづくり会議と地域まちづくり会議のテーマを合わせる必要があるのではないかと発言。

委員から、重点テーマ、関心事については地域によって異なるため、必然的に、それぞれの地域まちづくり会議での設定テーマが異なることになるとの発言。

委員から、地域での意見の中で全市的なものは、これまで、かごしままちづくり会議に反映させており、今後、テーマ協議を進める中でも、それは可能であるとの発言。

会長から、かごしままちづくり会議のテーマと地域まちづくり会議のテーマは直接リンクする必要はなく、地域まちづくり会議においては、それぞれの地域の実情に合わせたテーマを設定し、会長の判断で弾力的に進めていただき、全市的に投げかけ、検討したい事項がある場合に、かごしままちづくり会議に反映していただく取扱いとすることで委員了承。

委員から、資料に例示された7項目（観光・コンベンション、農林水産業、商工業、交通ネットワーク、教育、福祉、コミュニティ）を大きく2つに分けて、それぞれ2回ずつテーマにあげるといえるのはどうかとの発言。

会長から、資料に例示された7項目を2つのグループに分け、それをさらに2つに分けたテーマを2回ずつ取り上げる。

次回については、「観光・コンベンション、農林水産業」を主テーマ、「商工業、交通ネットワーク」を副テーマとしてとりあげ、次々回で、主・副を入れ替える。原則として主テーマについての意見を中心にいただくが、副テーマも含めて考えていく、という取扱いで議論していくことで異議なく了承。

(6) その他

事務局から次回会議は7月頃の開催を予定しているとの発言。

5 閉 会

= 以上 =